

科目名	社会福祉論 A		科目コード	W31023	単位数 時 間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-01H		30時間				
区分	専門実践領域科目 社会福祉士指定科目	必修	担当者名	丸山 龍太			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。また、社会福祉の問題と社会構造の關係の視点から現代社会問題について理解する。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解することができる。また、社会福祉の問題と社会構造の關係の視点から現代社会問題について理解することができる。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	社会福祉の原理 (1)		社会福祉の歴史、思想・哲学について学ぶ。							
第2回	社会福祉の原理 (2)		社会福祉の理論、社会福祉の原理と実践、社会福祉学の構造と特徴について学ぶ。							
第3回	社会福祉の歴史 (1)		政策史、実践史、発達史等の観点から社会福祉の歴史について学ぶ。また、日本と欧米の比較史の観点についても学ぶ。							
第4回	社会福祉の歴史 (2)		日本の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。慈善事業・博愛事業・社会事業・社会福祉事業・社会福祉について。							
第5回	社会福祉の歴史 (3)		欧米の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。救貧法・慈善事業・博愛事業・社会事業・社会保険・福祉国家・福祉社会について。						社会福祉の原理・歴史についての小テスト	
第6回	社会福祉の思想と哲学		社会福祉の思想と哲学を学ぶ。社会福祉の思想と哲学・人間の尊厳・社会主義・平和主義について。						レポート課題提示	
第7回	社会福祉の理論 (1)		戦後社会福祉の展開と社会福祉理論、政策論と運動論と経営論、欧米の社会福祉の理論について学ぶ。							
第8回	社会福祉の理論 (2)		社会福祉の論点について、とくに公私関係・効率性と公平性・普遍主義と選別主義・自立と依存の観点から学ぶ。							
第9回	社会福祉の理論 (3)		社会福祉の論点について、とくに自己選択・自己決定とパターナリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、社会的承認の観点から学ぶ。							
第10回	社会問題と社会構造 (1)		貧困・孤立・失業・要援護性・偏見と差別・社会的排除等に代表される社会問題と社会福祉の関りを学ぶ。							
第11回	社会問題と社会構造 (2)		少子高齢化・格差社会・グローバル化・価値観の変化等に代表される社会問題の構造的背景について学ぶ。						レポート課題提出	
第12回	社会福祉政策の基本的な視点		社会問題と福祉政策、福祉政策の理念、福祉政策と社会保障、福祉レジームと福祉政策について学ぶ。						社会福祉理論・政策に関する小テスト	
第13回	社会福祉政策におけるニーズとは		ニーズの種類と内容、ニーズの種類と資源、ニーズの把握方法について学び、社会福祉の対象とニーズについても考える。							
第14回	福祉政策におけるニーズと資源の關係		社会資源の種類と内容、把握方法、開発方法について学び、福祉政策におけるニーズと資源の關係についても考える。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>出席が2/3以上に満たない場合は、評価の対象としない。講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、途中小テストを実施する。また、講義中盤でレポート課題を課す。これらの項目が講義への参加態度の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようお願いしたい。</p>									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学習	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は福田幸夫・長岩嘉文編(2021)『社会福祉の原理と政策』弘文堂、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	社会福祉論B		科目コード	W31024	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング	W-PPSW1-02H	30時間							
区分	専門実践領域科目 社会福祉士指定科目	必修	担当者名	工藤 久				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。また、福祉サービスの供給と利用の過程について理解すると共に、福祉政策の国際比較の視点から日本の福祉政策の特性について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	社会福祉の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解できる。また、福祉サービスの供給と利用の過程について理解できる。さらに、福祉政策の国際比較の視点から日本の福祉政策の特性についても理解できる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	福祉政策の構成要素(1)		福祉政策の構成要素とその役割・機能について学ぶ。また、政府・市場・事業者・国民との関係性についても学ぶ。							
第2回	福祉政策の構成要素(2)		措置制度と契約制度、多元化する福祉サービス提供方式について学ぶ。							
第3回	福祉政策の過程(1)		政策決定と実施及び評価について学ぶ。また、福祉政策の方法と手段についても学ぶ。							
第4回	福祉政策の過程(2)		福祉政策の政策評価と行政評価について学ぶ。また、福祉政策と福祉計画の関係性についても学ぶ。							
第5回	福祉政策の動向(1)		社会福祉法の特徴と近年の法改正の動向を学ぶ。また、地域包括包括ケアシステムについても学ぶ。							
第6回	福祉政策の動向(2)		地域共生社会について学ぶ。また、多文化共生と持続可能性(SDGs等)と社会福祉の関係性についても学ぶ。						福祉政策に関する小テスト	
第7回	福祉政策の課題		日本の福祉政策の課題について考える。							
第8回	福祉政策と関連施策		保健医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策、経済政策と福祉政策の関係性について学ぶ。							
第9回	福祉サービスにおける供給部門(1)		公的部門と民間部門の違い、公的部門の特徴について学ぶ。							
第10回	福祉サービスにおける供給部門(2)		民間部門(営利・非営利)、ボランティア部門、インフォーマル部門の特徴を学ぶ。また、部門間の調整と連携と協働についても学ぶ。							
第11回	福祉サービスにおける供給課程(1)		公私(民)関係、再分配と割当について学ぶ。							
第12回	福祉サービスにおける供給課程(2)		市場・準市場、福祉行財政、福祉計画、福祉開発について学ぶ。						福祉サービスの供給に関する小テスト	
第13回	福祉サービスにおける利用過程		スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップについて学ぶ。							
第14回	福祉政策の国際比較		国際比較の視点を学ぶ。とくに、欧米・東アジアの福祉政策の特徴を学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価 方法 及び 評価 基準	出席が2/3以上に満たない場合は、評価の対象としない。講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度20%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は福田幸夫・長岩嘉文編(2021)『社会福祉の原理と政策』弘文堂、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	キリスト教社会福祉論		科目コード	W31002	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-03H		30時間				
区分	専門実践領域科目	必修	担当者名	柘植 秀通			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	<p>社会福祉の中には本来、思想性が強く必要とされます。それは、人間をどう見るか、人間の幸福とはいかにあるべきものか、さらに、そのような人間にいかに向き合っていくかといった宗教性を持った課題です。これを、弘前学院が掲げるキリスト教主義の視点から考え、特にキリスト教と社会福祉の本質的結びつきについて考える。</p> <p>特に、福祉実践の基本となる「愛」とは何か。それを、現実はどう対応させていけばいいか、ということを考えていくことがこの教科の課題であり、特に聖書にもとづいて福祉をどう考えていくかを学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>聖書にもとづく愛にたつ実践とは何かを学び、現実の実践の中でその愛をあらわすことができるようになる。ということが最終目標ですが、この授業においてはその基礎として、まず聖書に示されたキリストの愛について知り、実践にいかすにはどうすればいいかを考える者となることが目標です。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション		授業の概要に関する解説					講義		
第2回	キリスト教に関する基本的理解		キリスト教とはなんであるか、ということに関する基本的問い直し。					講義		
第3回	社会福祉に関する基本的理解 1		社会福祉とは何かについて、演習を通しての理解					演習		
第4回	社会福祉に関する基本的理解 2		演習を通して学んだことの発表と、そのことに関する講義					演習・講義		
第5回	社会福祉のキリスト教的基礎		キリスト教の他者理解と、他者の存在への関わりに関する基礎的学び。					講義		
第6回	キリスト教的基礎に則った実践者		マザーテレサを例として、他者存在への関わりのある方について考える。					映像視聴・講義		
第7回	愛に関する講義		キリスト教的な愛とは何かについて、マザーテレサを引きながら、さらに深く考える。					講義		
第8回	神の愛と人の愛に関する講義		神の愛と人間の愛との相違について考察し、人間の愛がいかに神の愛となるかについて学ぶ。					講義		
第9回	人の価値に関する講義		全ての人の価値の源泉、人はなぜ愛されるに足る存在であるかのキリスト教的根源についての考察。					講義		
第10回	人の尊厳が台無しにされている現状の認識 1		難民の映像を通して、いかに尊厳ある存在である人が、無価値なものとして扱われてきたか、また扱われているかの現状認識					映像視聴・講義		
第11回	人の尊厳が台無しにされている現状の認識 2		個人に焦点を当てて、貧困を通して如何に人の尊厳が傷つけられているかを学ぶ。					映像視聴・講義		
第12回	召命について		悲惨な現状を認識したうえで、自分が、どのような場・人の支援に召されているかという概念について考え、召されるということについて講義考察を行う。					講義		
第13回	キリスト教社会福祉の実践家について		キリスト教社会福祉の実践家を例を挙げて考察する。					映像視聴・講義		
第14回	召命について 2		自分がどのような場・実践に召されているかを、ツールを使って考察し、自らの召命について考える。					演習		
第15回	人間の尊厳についての考察		自分が出ていく場で、どのような人と会っても、その人の価値・無限の尊厳を信じることのできる根本について考察する。					演習		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への参加度50% レポート50%によって行う。 レポートは、参考文献を明示することはもちろん重要だが、それ以上に自らがどのように考えるかを明示できることを重視する。</p>									
課題等	随時、授業において提供し、次回に提出するようにする。									
事前事後 学修	次の週の内容について、個々学習する。また、随時すべき学習を指定する。特に、次回に向かって1時間程度毎週沈黙思考する時間を設けるべき。									
教材 教科書 参考書	聖書（新共同訳） 978-4-8202-1204-1									
留意点	授業の中での発言を重視し、参加度を重要視する。									

科目名	ソーシャルワーク総論A		科目コード	W31005	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-04H						
区分	専門実践領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修 必修	担当者名	小川 幸裕			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。</p>									
到達目標	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(1)		社会福祉士及び介護福祉士法による社会福祉士の定義、義務、法制度の成立の背景、法制度見直しの背景について学ぶ。							
第2回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(2)		精神保健福祉士による精神保健福祉士の定義、義務、法制度の成立の背景、法制度見直しの背景について学ぶ。							
第3回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(3)		社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性について学ぶ。							
第4回	ソーシャルワークの概念		ソーシャルワークの定義、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について学ぶ。							
第5回	ソーシャルワークの原理(1)		社会正義、人権尊重について学ぶ。							
第6回	ソーシャルワークの原理(2)		集団的責任、多様性の尊重について学ぶ。							
第7回	ソーシャルワークの理念(1)		当事者主権、尊厳の保持について学ぶ。						1～7回までの内容の小テスト	
第8回	ソーシャルワークの理念(2)		権利擁護、自立支援について学ぶ。							
第9回	ソーシャルワークの理念(3)		ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーションについて学ぶ。							
第10回	ソーシャルワークの形成過程(1)		事前組織協会、セツルメント運動について学ぶ。							
第11回	ソーシャルワークの形成過程(2)		医学モデルから生活モデルへの転換、ソーシャルワークの統合化について学ぶ。						8～11回までの内容の小テスト	
第12回	ソーシャルワークの倫理(1)		専門職倫理の概念について学ぶ。							
第13回	ソーシャルワークの倫理(2)		倫理綱領とは、ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領について学ぶ。							
第14回	ソーシャルワークの倫理(3)		精神保健福祉士の倫理綱領、倫理的ジレンマについて学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価方法及び評価基準	講義への参加態度10%、小テスト10%、レポート20%、定期試験60%で評価する。定期試験では、【知識・理解】の観点から到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出し評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から、リアクションペーパー、小テスト、レポート提出を求める。リアクションペーパーは、講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価する。配点は1回1点とし10回の記載を課す(各項目において半分以上記載されていない場合は評価対象としない)。小テストは、1～7回と8～11回における基本的用語の理解について穴埋め式等で評価する。レポートは、ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートを課し、評価する。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	岩崎晋也ほか監修(2021)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房 ISBN 9784623090495									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	ソーシャルワーク総論B		科目コード	W31006	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング	W-PPSW1-05H								
区分	専門実践領域科目	必修	担当者名	小川 幸裕			授業 形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。</p>									
到達目標	<p>社会福祉士の職域と求められる役割について理解することができる。ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解することができる。ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解することができる。総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲		ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について学ぶ。							
第2回	社会福祉士の職域(1)		行政関係、福祉関係(高齢者領域、障害者領域、児童・母子領域、生活困窮者自立支援・生活保護領域)について学ぶ。							
第3回	社会福祉士の職域(2)		医療関係、教育関係、司法関係、独立型事務所等と社会福祉士の職域拡大について学ぶ。							
第4回	福祉行政における専門職		福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司等について学ぶ。							
第5回	民間の施設・組織における専門職		施設長、生活相談員、社会福祉協議会の職員、地域包括支援センターの職員、スクールソーシャルワーカー、医療層ソーシャルワーカー等について学ぶ。							
第6回	諸外国の動向		欧米諸国の動向、その他諸外国における動向について学ぶ。							
第7回	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象		ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味、ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象について学ぶ。							
第8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク		ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味、ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象について学ぶ。支援の実際について学ぶ。						1～8回までの内容の小テスト	
第9回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意味と内容		多機関による包括的支援体制、その実際について学ぶ。							
第10回	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(1)		フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制について学ぶ。							
第11回	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(2)		ソーシャルサポートネットワークングについて学ぶ。							
第12回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(1)		多職種連携及びチームアプローチの意義について学ぶ。							
第13回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(2)		機関・団体間の合意形成と相互関係について学ぶ。							
第14回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(3)		利用者、家族の参画について学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加態度10%、小テスト10%、レポート20%、定期試験60%で評価する。定期試験では、【知識・理解】の観点から到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出し評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から、リアクションペーパー、小テスト、レポート提出を求め、リアクションペーパーは、講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価する。配点は1回1点とし10回の記載を課す(各項目において半分以上記載されていない場合は評価対象としない)。小テストは、1～7回と8～11回における基本的用語の理解について穴埋め式等で評価する。レポートは、ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートを課し、評価する。</p>									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	岩崎晋也ほか監修(2021)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房 ISBN 9784623090495									
留意点	<p>1. 教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。</p> <p>2. 社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。</p>									

科目名	社会福祉発達史 A		科目コード	W31009	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-06		30時間				
区分	専門実践領域科目	選択	担当者名	松本 郁代				授業 形態	講義	単独
	教職科目（高一種【公民】）	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>前近代からの日本における社会福祉のあゆみを概観する。そのうえで、慈善事業やその組織化から社会福祉の段階に至るまでの流れについて、高齢者・障害者・医療などの各領域に踏み込んで、詳細に講義する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>社会福祉専門職になる際に、社会福祉の歴史を知ることによって、過去の総括を行うと共に、未来の社会福祉像を見通すことができる。パースペクティブで実証的な視点をもつ社会科学としての社会福祉学を修得する一助とする。</p>									
到達目標	<p>1. 社会福祉の歴史を学ぶことによって、現在日本の社会福祉の状況や到達点について、科学的に認識し、社会や時代の流れの中で、社会福祉実践について見通しをもてるようになること。</p> <p>2. 日本の社会福祉の歴史を学ぶことによって、先人の努力を謙虚に学び、社会福祉の発展に寄与するためには、どのようにしたらよいかを考察すること。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	講義計画、社会福祉の歴史の全体像			日本における社会福祉の歴史の流れを説明する						
第2回	前近代における社会福祉の歴史			日本における前近代の社会福祉の歴史を概観する						
第3回	恤救規則			明治維新と恤救規則						
第4回	特別救護立法			恤救規則以外の救済制度						
第5回	救済事業の展開			救済事業における二つの流れ、窮民救済						
第6回	慈善事業			近代日本における慈善事業						
第7回	児童保護事業			明治期の育児施設について						
第8回	熊本バンド・「北海道バンド」			感化事業・感化院創設・監獄改良事業						
第9回	感化救済事業			感化救済事業における実践						
第10回	救済と慈善の思想			慈恵主義、慈善事業思想の諸相						
第11回	救貧法制構想			恤救規則の改正案						
第12回	慈善事業の発展			慈善事業ほ本格化						
第13回	児童保護事業の展開			児童保護事業における諸実践						
第14回	養老事業の形成			高齢者領域の取り組み						
第15回	慈善事業・慈善組織化の時代のまとめ			前期中の講義で取り上げた内容の整理						
評価方法及び評価基準	客観式・短答式試験のみ。合格点に達しない場合、毎回の小テストの点数を10点まで加算するが、加点の上限は10点まで。									
課題等	毎回指示を出す									
事前事後学修	配布資料を講義前に、辞書を引いて読んでおくこと。本学図書館における文献検索の方法を習得しておくこと。 生江孝之（1931）『日本基督教社会事業史』教文館、五味百合子編著（1973）『社会事業に生きた女性たち』ドメス出版などを使用する。尚、五味編集のものは、正篇・続篇・続々篇があり、各々その都度指示する。これらは、図書館で利用すること。									
教材教科書参考書	池田敬正（1994）『日本における社会福祉のあゆみ』法律文化社 ISBN:4-589-01811-x 室田保夫編著（2006）『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 ISBN:4-623-0459-6									
留意点	私語・遅刻厳禁 欠席した場合には、次の日の正午までに配布物を受け取りにくること。 国語辞典・漢和辞典を持参すること。									

科目名	社会福祉発達史B		科目コード	W31010	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-07		30時間				
区分	専門実践領域科目	選択	担当者名	松本 郁代				授業 形態	講義	単独
	教職科目（高一種【公民】）	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>前近代からの日本における社会福祉のあゆみを概観する。そのうえで、慈善事業やその組織化から社会福祉の段階に至るまでの流れについて、高齢者・障害者・医療などの各領域に踏み込んで、詳細に講義する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>社会福祉専門職になる際に、社会福祉の歴史を知ることによって、過去の総括を行うと共に、未来の社会福祉像を見通すことができる。パースペクティブで実証的な視点をもつ社会科学としての社会福祉学を修得する一助とする。</p>									
到達目標	<p>1. 社会福祉の歴史を学ぶことによって、現在日本の社会福祉の状況や到達点について、科学的に認識し、社会や時代の流れの中で、社会福祉実践について見通しをもてるようになること。</p> <p>2. 日本の社会福祉の歴史を学ぶことによって、先人の努力を謙虚に学び、社会福祉の発展に寄与するためには、どのようにしたらよいかを考察すること。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	慈善事業の組織化と社会化			慈善事業がもつ社会的役割と中央慈善協会結成以降の組織化について						
第2回	社会事業①			社会調査と社会問題論						
第3回	社会事業②			社会連帯論						
第4回	社会事業③			社会事業理論の展開						
第5回	社会事業④			救済事業調査会						
第6回	社会事業⑤			社会事業行政						
第7回	社会事業⑥			方面委員・済世顧問制度						
第8回	社会事業⑦			経済保護事業						
第9回	社会事業⑧			児童保護の進展、医療保護とセツルメント						
第10回	社会事業⑨			救護法の成立						
第11回	戦時厚生事業①			戦時厚生事業期について						
第12回	戦時厚生事業②			戦時下の健民健兵政策、厚生事業理論						
第13回	戦後日本の社会福祉①			戦後社会と福祉改革						
第14回	戦後日本の社会福祉②			社会福祉諸法の成立						
第15回	戦後日本の社会福祉③			社会福祉の本格的形成						
評価方法及び評価基準	客観式・短答式試験のみ。合格点に達しない場合、毎回の小テストの点数を10点まで加算するが、加点の上限は10点まで。									
課題等	毎回指示を出す									
事前事後学修	配布資料を講義前に、辞書を引いて読んでおくこと。本学図書館における文献検索の方法を習得しておくこと。 生江孝之（1931）『日本基督教社会事業史』教文館、五味百合子編著（1973）『社会事業に生きた女性たち』ドメス出版などを使用する。尚、五味編集のものは、正篇・続篇・続々篇があり、各々その都度指示する。これらは、図書館で利用すること。									
教材教科書参考書	池田敬正（1994）『日本における社会福祉のあゆみ』法律文化社 ISBN:4-589-01811-x 室田保夫編著（2006）『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 ISBN:4-623-0459-6									
留意点	私語・遅刻厳禁 欠席した場合には、次の日の正午までに配布物を受け取りにくること。 国語辞典・漢和辞典を持参すること。									

科目名	社会保障論A		科目コード	W31011	単位数 時 間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-08		30時間				
区分	専門実践領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本講では、「社会保障」の概念や制度としての「社会保障」の歴史的展開、社会保障の方法等の基礎的知識を体得した後、医療保険および介護保険に注目し、それらの仕組みや体系、さらには、それらに関連する諸問題をとりあげて検討を加える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	社会福祉の背景をなす社会保障という視野を獲得し、社会福祉における対人援助に関して、より立体的に捉えることが出来るようになることを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	社会保障とは何か①		「社会保障」の概念							
第2回	社会保障とは何か②		社会保障の理念							
第3回	社会保障の歴史①		欧米における「社会保障」の形成と展開							
第4回	社会保障の歴史②		我が国における「社会保障」の形成と展開							
第5回	社会保障の歴史③		現代社会における社会保障の機能							
第6回	社会保障の方法		社会保険方式と社会扶助方式							
第7回	医療保険①		保険者・被保険者と保険料							
第8回	医療保険②		保険給付							
第9回	医療保険③		診療報酬と薬価基準							
第10回	医療保険④		高齢医療制度							
第11回	医療保険⑤		国民医療費と医療提供体制							
第12回	介護保険①		保険者・被保険者と保険料							
第13回	介護保険②		保険給付							
第14回	介護保険③		介護提供体制と権利保護							
第15回	総括		まとめと振り返り							
評価 方法 及び 評価 基準	試験のみで評価する。									
課題等	特になし									
事前事後 学修	特に事後学修に努めること。指示された文献等の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障 第14版』有斐閣アルマ									
留意点	制度に関する知識は、意識して学ばなければ決して身につかない。									



科目名	社会保障論B		科目コード	W31012	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
区分	専門実践領域科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	科目ナンバリング	W-PPSW1-09	担当者名	大野 拓哉		授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本講は、社会保障論Aの続編として、年金保険、労働保険（雇用保険、労災保険）の各保険制度を学び、更に、簡単ではあるが、社会手当、生活保護、社会福祉についても概観する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	社会福祉の背景をなす社会保障という視野を獲得し、社会福祉における対人援助に関して、より立体的に捉える事が出来るようになる事を目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容							備 考	
第1回	年金保険①	保険者・被保険者と保険料								
第2回	年金保険②	老齢年金								
第3回	年金保険③	障害年金								
第4回	年金保険④	遺族年金								
第5回	年金保険⑤	財政と業務体制								
第6回	雇用保険①	保険者・被保険者と保険料								
第7回	雇用保険②	保険給付								
第8回	雇用保険③	雇用保険事業								
第9回	労災保険①	適用事業と保険料								
第10回	労災保険②	労災認定								
第11回	労災保険③	保険給付								
第12回	社会手当	児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当								
第13回	生活保護	生活保護制度								
第14回	社会福祉	社会福祉制度								
第15回	総括	まとめと振り返り								
評価 方法 及び 評価 基準	試験のみで評価する。									
課題等	特になし									
事前事後 学修	特に事後学修に努めること。指示された文献等の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障 第14版』有斐閣アルマ									
留意点	制度に関する知識は、意識して学ばなければ決して身につかない。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ		科目コード	W32011	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-10						
区分	専門実践領域科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋和幸・立花茂樹・駒ヶ嶺裕子			授業 形態	演習	クラス分け	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本科目は、ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、ソーシャルワークの知識と技術の習得及びソーシャルワークの価値規範や倫理の基本的事項の理解を図るために、具体的な援助場面を想定したグループディスカッションやロールプレーイング等の活動を中心とする演習形式で行う。</p> <p>ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ(専門)の前段に位置付けられる科目である。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1及び、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的能力を、身につけるための心構えを持つことができている。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範や倫理を実践的に理解できている。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力の基礎を身につけている。</p> <p>④ソーシャルワークの展開過程において用いられている知識と技術を実践的に理解できている。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	自己覚知と他者理解			自己理解と他者理解について学ぶ。本演習で用いる振り返りシートの記入方法の指導を行う。				振り返りシートの様式説明		
第2回	基本的なコミュニケーション技術(1)			言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約など)を学ぶ。				振り返りシートの記入を課す		
第3回	基本的なコミュニケーション技術(2)			非言語技術(表情、態度、身振り、位置取りなど)を学ぶ。				"		
第4回	基本的な面接技術(1)			面接の構造化、場の設定(面接室・生活場面・自宅など)について学ぶ。				"		
第5回	基本的な面接技術(2)			ツールの活用、電話面接、ウェブ会議システムやe-mailによる情報交換について学ぶ。				"		
第6回	ソーシャルワークの展開過程(1)			事例を用いてケースの発見、インテークまでの過程を学ぶ。				"		
第7回	ソーシャルワークの展開過程(2)			事例を用いてアセスメントの過程を学ぶ。				"		
第8回	ソーシャルワークの展開過程(3)			事例を用いてプランニングの過程を学ぶ。				"		
第9回	ソーシャルワークの展開過程(4)			事例を用いて支援の実施とモニタリングまでの過程を学ぶ。				"		
第10回	ソーシャルワークの展開過程(5)			事例を用いて支援の終結と事後評価、アフターケアまでの過程を学ぶ。				"		
第11回	ソーシャルワークの記録			支援経過の把握と記録について学ぶ。				"		
第12回	グループダイナミクスの活用			グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)について学ぶ。				"		
第13回	グループワークの展開過程			事例を用いて準備期・開始期・作業機・終結期までの流れを学ぶ。				"		
第14回	プレゼンテーションの技術(1)			個人プレゼンテーションを体験する。				"		
第15回	プレゼンテーションの技術(2)			グループプレゼンテーションを体験する。				定期試験に替えるレポートの課題を発表		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>○平常点評価65%とレポート試験35%による総合評価とする。</p> <p>・演習授業における達成度をみるために毎回振り返りシートを記入してもらう。</p> <p>「振り返りシート5点満点×13回(第1回と第15回を除く)＝65点満点」＋「定期試験に替えるレポート35点満点」で評価をする。なお、3分の1以上(5回)欠席した学生は評価の対象としない。</p>									
課題等	授業終わりに振り返りシートを課し、コメントを付して次回授業で返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	<p>教科書 社会福祉士養成講座編(2021年)『13巻 ソーシャルワーク演習(共通)』中央法規 ISBN 978-4-8058-8243-6</p> <p>参考書 いたう総研(2021年)『見て覚える国試ナビ2022』(中央法規) ISBN 978-4-8058-8140-8</p>									
留意点	演習では積極的発言と共同作業が求められる。能動的学習姿勢での参加を求める。									